



たけた

市議会だより

NO.78

令和8年2月1日発行

TAKETA **Gikai News**



竹田市議会

- 一般質問 2～5
- 予算特別委員会 6
- 議員研修 6
- 議決結果 7
- 行政視察報告 8～10
- 市民との意見交換会 11



カワセミのつがい

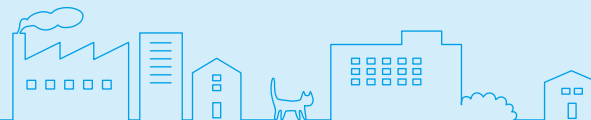
見かけると幸運が訪れるといわれるカワセミ。

オス（左）は上下のくちばしが黒く、メス（右）は

下のくちばしがオレンジ色をしている。

3月頃からオスが捕らえた小魚をメスにプレゼントする

求愛給餌が行われる。



12月8日・9日、7人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。



🎙️ 後藤 建一

IP告知端末更新事業について

Q 11月末現在のIP告知端末の更新件数と進捗率は。

A 更新件数は3,426台で進捗率は56.5%である。

Q 更新した市民の方から操作説明をしてもらったが分かりにくいとの声を聞く。そういった市民に対し、どのような対応を考えているか。

A 未配布の操作マニュアルの郵送に加え、市ホームページやケーブルテレビで操作方法の動画を配信する。



IP告知端末機

教育行政について

Q 市内中学生の英語における全国及び県内の学力調査の結果は。

A 中学3年生を対象とした令和5年度全国学力学習状況調査で「話すこと」の調査では、全国平均比較で-9.6ポイント。中学2年生対象の県大分県学力定着状況調査での「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の調査では、県平均比較で-5.2ポイント（令和5年度）、-2.9ポイント（令和6年度）、-1.9ポイント（令和7年度）と徐々に英語力が向上している。

Q 生徒の英語力向上に向けての今後の取組は。

A 英会話教室等で弱点のスピーキング力を高め、入試問題に対応できる講座の実施により英語力を鍛える。英語学習の楽しさを認識してもらえよう英語教育の充実を図る。

その他
質問

・鳥獣被害対策について



なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。



🎙️ 賀籠六 めぐみ

ごみの諸問題について

Q 外国の方々にごみ分別に関する考え方を知ってもらう工夫が必要では。

A ごみ分別学習会が一番有効な手段と考える。

Q 福祉サービス利用者への対応は。

A 重たくて持ち運びが困難だという声から燃やせるごみ袋（小）を導入した。

Q 福祉サービス提供者から指定日朝8時のごみ出しが困難との声を聞く。指定日外ごみ排出収納容器（ハンディキャップボックス）や指定日外ごみ排出目印（ハンディキャップシール）の導入の考えは。

A それらは戸別収集方式を採用している自治体

の取組であり、本市はステーション方式のため難しい。



ハンディキャップシール(左)とハンディキャップボックス(右) [日野市]

放課後児童クラブの課題について

Q 学校との連携や意見交換を定期的に行うことができる仕組みづくりの考えは。

A 個々のクラブによって連携体制に違いがあるため、一律には難しいが、必要に応じ協議する。

Q 人員確保の支援を行う必要があるのでは。

A 有効な手立てが見つからない。支援できる方法を探る。

Q 支援員のスキルアップの体制は。

A Web研修等参加しやすい体制を検討する。

その他
質問

・道の駅すごうの運営について



🎙️ 工藤 忠孝

竹田市中心市街地の防災対策について

Q 中心市街地には令和6年度の調査で145棟の空き家、空き店舗があり、住宅が密集しているため火災の発生が危惧される。防御体制は。

A 中心市街地区域に設置された消火栓に水利を確保し、消防団からの中継補水を行う。大規模火災に発展する場合は、相互応援協定により県内消防本部や防災航空隊による空中消火を要請する。

Q 中心市街地には、防火水槽が1基しかなく、大地震が発生すれば、消火栓は使用不能となるため、防火水槽の設置を進めてはどうか。

A 防火水槽の設置には工事スペースと地下埋設

状況を考慮する必要があり制限が多い。このため、密集地から少し離れた場所も視野に検討する。

Q 空き家や空き店舗の持ち主も今後の家や土地の整理に悩んでいる方もいる。市として土地を購入し防火水槽の設置を考えてはどうか。

A 火災が発生した場合、延焼拡大の恐れがあることは承知している。住宅密集地から少し離れた所で検討しているが、検討次第で様々なことを考え対策を練っていく。



有蓋の防火水槽



熊野 忠政

世界かんがい施設遺産について

Q 今回認定された、竹田のかんがい用水群の概要は。

A 大野川上流の中山間部の水田をかんがいするため、ずい道や水路橋などの高度な水路技術が求められ、先人たちの英知と苦労によって築造された大小21本の用水群である。



Q 認定後の利活用や予算確保の考えは。

A 情報発信や観光資源、教育資源の利活用について協議をおこない、施設の持続的な利用と保全に努めていく。予算については補助事業の活

用に向けて、国、県及び関係機関と協議をおこなっている。

Q 将来に向けての展望は。

A 竹田のかんがい用水群を市民の宝として、大切に守り育て、竹田市の持続可能な農業と地域の活性化に繋げていく。

水道施設の維持管理について

Q 飲料水の源である水源池、配水池等の除草等は計画的に実施されているか。

A 除草等は年2回の計画で作業委託により実施しているが、一部の委託者が対応しきれていない現状がある。今後は、委託先の業務内容などを検証し、作業が徹底できるよう検討を進める。

用語解説

※世界かんがい施設遺産…国際かんがい排水委員会が認定した、通水から100年以上経過し、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設。



本郷 敦子

竹田市予約型乗合タクシーについて

Q カモシカ号の現在の利用状況は。

A 令和6年度のカモシカ号の利用者数は3,545人と前年の同時期と比べると86%に若干減少しているが、全国的に人口規模からみても利用者が多い乗合タクシーだと認識している。

Q 増便の考えはあるか。

A カモシカ号は毎週月曜日から土曜日までの週6日、午前3便、午後3便で運行しているが、運転手不足や勤務時間の制約等の課題があり、現状の便数を維持することが精一杯である。増便は困難であるが、予約が多く満車の場合には新たに増便し対応している。

Q 利便性向上のため、予約締切時間を現行の1時間前までから30分前までに変更できないか。

A 予約時間は前日又は出発1時間前までが変更可能である。運行管理や配車調整の観点から安定的な運行の維持を最優先に取り組んでいるため、現行制度の中でご利用いただきたい。

将来的に改善の余地があるか検討し、引き続き市民の交通手段の確保に努める。



竹田市予約型乗合タクシー(カモシカ号)



その他
質問

・ごみの出し方について



副田 富雄

竹田市内の移動手段の確保について

Q バスやタクシーなどの台数の減少や減便などにより、観光客や市民の移動手段としての機能が損なわれつつある。増便や運転手確保の支援などの対策は。

A バス会社やタクシー会社と定期的に協議を重ね、これまでも、路線バス維持補助金、地域公共交通燃料高騰緊急支援事業、プレミアム付交通チケット事業、貸切バス利用促進事業、コミュニティバス低燃費車両導入支援事業などを行ってきた。

Q 別府市ではライドシェア事業に取り組んでいるが、本市でもこのような独自の取組は考えられないか。

A 本市においても制度的には導入可能である。

バス、タクシー業界が地域の交通手段を維持するために、懸命に努力されている。その役割を尊重し、補完的な仕組みとしてライドシェアの可能性を検討する。



別府市整備のライドシェア車両

旧直入町保健福祉センターについて

Q 土地建物の活用についての考えは。

A 保健・老人福祉等の目的を踏まえつつ、本市及び地域にとって有効に活用できるよう、協議を重ねる。

用語解説

※ライドシェア…一般ドライバーが自家用車等を使って乗客を有償で運ぶサービス。

その他質問

- ・防災対策について
- ・林業について



佐藤 美樹

豊後竹田駅周辺整備事業について

Q 事業の目的と経緯、また事業費は。

A 令和5年度に豊後竹田駅周辺整備を提案。交通機能強化、安全性・利便性向上を目指し、総事業費は広場整備や駐車場整備を含め約10億円を見込む。国の補助50%を受け、5億円は起債する予定。

Q この事業によるJR乗降客や市内への経済効果の試算は。

A JR乗降客の大幅な増客は見込めないが、交通の結節点として強化する。経済効果は、整備事業単体では計れない。

Q 駅構内のエレベーターやスロープ設置などのバリアフリー化を求める。オストメイト対応ト

イレも設置するべきではないか。

A 駅構内はJR管理区域かつ補助事業の対象外だが、重要性は認識している。本事業では駅前広場、トイレ、歩道などのバリアフリー化を図る。駅構内については、JRと引き続き協議を継続する。

Q 市民との合意形成をどう行うのか。

A 各団体へのヒアリング、検討委員会、都市計画審議会を経て案を作成してきた。今後は市報などで周知し、幅広い世代の意見を聞く。



豊後竹田駅前再整備構想図(案)

用語解説

※オストメイト対応トイレ…人工肛門や人工膀胱の利用者が衛生的に排泄処理を行える専用設備を備えた公衆トイレ。



第4回定例会 予算特別委員会 令和7年度 一般会計補正予算

可決

1億9,964万4千円増額(総額:231億2,183万9千円)

令和7年第4回定例会・予算特別委員会が12月12日に開催され、付託された令和7年度一般会計補正予算第4号及び最終日に追加提案のあった令和7年度竹田市一般会計補正予算第5号を慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

補正予算の概要

歳出

- ◆ **総務費**
田近家寄付金を地方創生に積み立てる基金 1,000万円
移住定住支援補助金 594万5千円
- ◆ **民生費**
大分県後期高齢者医療広域連合負担金 951万9千円
児童福祉扶助費 1,354万2千円
- ◆ **衛生費**
新環境センター整備事業費負担金 294万1千円
火葬場浄光園の新たな運営管理費 60万3千円
- ◆ **農林水産業費**
多面的機能支払交付金 1,369万5千円
有害鳥獣被害防止対策補助金 248万円
道の駅すごう合併処理浄化槽破損修繕費 41万1千円
- ◆ **商工費**
デジタル環境整備支援補助金 250万円

- ◆ **土木費**
道路維持補修事業費 2,187万円
- ◆ **教育費**
社会教育施設維持補修費 312万円
学校給食共同調理場の統合に伴う食器等購入費 327万3千円

歳入

- 国庫支出金 546万2千円
- 県支出金 1,689万5千円
- 寄附金 1,036万5千円
- 繰入金 1億5,750万8千円
- 諸収入 81万4千円
- 市債 860万円

議員研修「議員質問力向上研修」

10月24日

委員会室



全国市議会議長会元法制参与の(株)廣瀬行政研究所代表、廣瀬和彦講師を招聘し、「効果的な一般質問の手法等」をテーマに議員質問力向上研修会を実施しました。本研修は議員個々の質問力の向上、政策提言や行政チェックの強化、次年度予算へ繋げる効果的な決算質疑の手法を学び議会機能の向上に資することを目的としたものです。

「市政における問題点を洗い出し、課題解決に導く質問となっているか」、「身近に実際に起き、事実に基づいた質問となっているか」など質問する意義をはじめ、議員としての知見を広める実りある研修となりました。



議決結果

令和7年

第4回定例会

令和7年12月1日～12月19日

議案等の議決結果

● 条例案

議案番号	件 名	結 果
議案第109号	竹田市地域コミュニティセンター条例の制定について	可 決
議案第110号	竹田市コミュニティバス運行条例の一部改正について	可 決
議案第111号	竹田市介護保険条例の一部改正について	可 決
議案第112号	竹田市国民健康保険税条例の一部改正について	可 決
議案第113号	竹田市火災予防条例の一部改正について	可 決
議案第114号	竹田市火入れに関する条例の一部改正について	可 決
議案第115号	竹田市営生育苗センター条例の廃止について	可 決
議案第116号	竹田市市営住宅条例の一部改正について	可 決
議案第117号	竹田市葬斎場条例の一部改正について	可 決
議案第118号	竹田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の全部改正について	可 決
議案第119号	竹田市学校給食共同調理場条例の一部改正について	可 決
議案第120号	竹田市学校給食費徴収条例の一部改正について	可 決
議案第140号	竹田市職員の給与に関する条例及び竹田市一般職の任期付き職員の採用等に関する条例の一部改正について	可 決
議案第141号	竹田市長及び副市長の給与に関する条例及び竹田市教育委員会教育長の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	可 決
議案第142号	竹田市議会議員報酬及び費用弁償条例の一部改正について	可 決

● 予算案

議案番号	件 名	結 果
議案第102号	令和7年度竹田市一般会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第103号	令和7年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第104号	令和7年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第105号	令和7年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第106号	令和7年度竹田市水道事業会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第107号	令和7年度竹田市簡易水道事業会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第108号	令和7年度竹田市農業集落排水事業会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第134号	令和7年度竹田市一般会計補正予算(第5号)について	可 決
議案第135号	令和7年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第136号	令和7年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第137号	令和7年度竹田市水道事業会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第138号	令和7年度竹田市簡易水道事業会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第139号	令和7年度竹田市農業集落排水事業会計補正予算(第3号)について	可 決

● 一般案

議案番号	件 名	結 果
議案第121号	他の普通地方公共団体の公の施設を竹田市の住民の利用に供させることに関する協議について	可 決
議案第122号	他の普通地方公共団体の公の施設を竹田市の住民の利用に供させることに関する協議について	可 決
議案第123号	竹田市総合文化ホールの指定管理者の指定について	可 決
議案第124号	竹田市小規模乾燥調整施設の指定管理者の指定について	可 決
議案第125号	竹田市すごう農産加工所の指定管理者の指定について	可 決
議案第126号	竹田市野外活動施設の指定管理者の指定について	可 決
議案第127号	竹田市竹田創生館の指定管理者の指定について	可 決
議案第128号	竹田市中島公園名水河川プール附帯施設の指定管理者の指定について	可 決
議案第129号	竹田市営駐車場の指定管理者の指定について	可 決
議案第130号	竹田市荻農産加工所の指定管理者の指定について	可 決
議案第131号	竹田市久住さやか農産加工所の指定管理者の指定について	可 決
議案第132号	竹田市長湯おんせん市場の指定管理者の指定について	可 決
議案第133号	竹田市直入水の駅おづるの指定管理者の指定について	可 決

議会運営委員会

行政視察報告

議会運営委員会

委員長 佐藤 美樹

令和7年11月18日から19日にかけて、佐賀県伊万里市と長崎県波佐見町で議会運営と議会改革の取組について調査研究を行った。



佐賀県

伊万里市



伊万里市議会では、予算審査特別委員会において従来の常任委員会分科会付託方式を見直し、全体を見通しながら歳出項目を専門的に審査する体制を構築していた。これにより、予算全体の整合性を確保しつつ、重点課題を集中的に議論できる仕組みとなる。竹田市議会が同様に導入している方式の合理性を再認識する契機となった。

また、決算審査特別委員会では、歳入は全体、歳出は分科会方式とすることで多角的な視点からの検証を可能とし、翌年度予算への改善要求を反映させるなど、審査の結果を確実に執行部へ届ける仕組みが確立されていた。委員長報告の詳細化や、重要課題を特定して集中的に議論する方法など、限られた時間の中で成果を最大化する工夫は、竹田市議会でも導入を検討すべき有益な示唆であると感じた。



また、議長選挙における所信表明の取組は、新人議員の判断に必要な取組であるとの説明を受けた。



長崎県

波佐見町

波佐見町議会では、決算審査を議長・監査委員を除く全議員による全体審査方式とすることで、決算全体に対する考察と理解を広げている。各課ごとに約1時間の審査時間を設定し、集中した一問一答方式で実施することにより、効率性と充実性を両立させている点が特徴的であった。また、決算書に所管課を明記するなど、資料の工夫により質疑準備の負担軽減と進行の円滑化を図っている。所管事務調査では、常任委員会ごとに年1回、所管課の事業を集中的に調べる取組を行い、議会のチェック機能向上に寄与している。



議会改革の観点では、波佐見町議会の情報公開に対する意識の高さが際立っていた。議会のケーブルテレビ・YouTube配信、「議会だより」の工夫、新聞折り込みによる一般質問テーマや時間の周知など、多様な媒体を活用し、住民へ積極的に情報を発信している。また、議会モニター制度の運用や「議員と語ろう会」の開催など、住民意見の吸収と政策形成への反映を目指す仕組みも整備されていた。



両議会の視察を通じ、竹田市議会における予算・決算審査の効率化や実効性向上、審査結果のフィードバック体制の強化、さらには広報・情報公開のあり方について、多くの改善点が明確になった。今回得た知見を議会運営委員会で共有し、具体的な制度改善へつなげていきたい。

11月5日から7日にかけて兵庫県神戸市では、危機管理体制について。尼崎市では、地域電子通貨「あま咲コイン」導入事業について調査研究を行った。



兵庫県 神戸市

神戸市危機管理センターは、2012年4月から稼働し、危機管理システム、デジタル防災行政無線システム、消防管制システムを備え、地上9階・地下1階の免震構造である。



災害時初動対応の拠点としての機能をはじめ災害の全容の早期把握、災害救助や応援要請等の意思決定、市民・関係機関等への情報提供を迅速・効率的に行っている。

神戸市は、平成7年1月17日に阪神淡路大震災が発生し、震災から30年を迎え、兵庫県内では6,434人の方が犠牲となっており、災害からの復旧復興をどのように実施してきたのか説明を受けた。被害が拡大したとされる狭小な道路幅員は、区画整備を行い、家屋の倒壊については、耐震化率の大幅な向上を実施している。



危機管理体制では、危機管理局に154名が勤務しており、365日24時間体制で警察、自衛隊OB等が常時勤務している。危機管理システムでは、命を守る活動に注力できるシステムとして瞬時に被害状況を把握することができ、不確定情報も随時登録し、記録・共有することに重点を置いたシステムで常に情報を更新し情報共有を図っている。

障害発生時も業務が途切れないクラウド環境、優れた耐災害性とハイレベルなセキュリティ対策を講じている。また、防災マップを年1回各地域ごとに配布し防災意識の向上につなげている。職員配備計画では、全職員21,000人のうち、震災を経験した職員は約3割ということで今後どのようにして、震災経験の教訓を継承していくかが課題となる。本市でも災害発生時の職員参集方法や防災意識の啓発が課題であると感じた。



兵庫県 尼崎市

尼崎市では地域電子通貨「あま咲コイン」について調査を行った。本事業の導入目的は、

- 尼崎に「訪れたい」「住んでみたい」「住み続けたい」そして「住んでよかった」と思えるまちを目指す。
- コロナ禍における地域経済の活性化を図る。（当時の市長の発案で実施）
- 実施に当たっては、庁内外を問わず連携内容について調整しながら実施。
- 毎年利用者のアンケートを実施する中で、制度について改善を行う。

あま咲コインのメリットは、アプリをダウンロードすると、すぐに利用ができ、二次元コードを読み込むだけで簡単に決済が可能。コインのチャージは全国セブン銀行、市内あま咲コイン販売店で可能。キャンペーン期間中は、チャージ時にプレミアムがついたり、決済額に応じてプレミアムポイントがその場で付与されるという仕組みであった。



当初は市内400店舗でスタートしたが、現在1,400店舗が加入している。一方で月2回の決済で現金の納入が行われるため、即現金化されないなどの理由から市内約6,000店舗のうち、4分の3がまだ加入に至っていない現状も浮き彫りになった。

国の交付金等を本事業に充当して運営してきたが、運営の財源について今後、国の動向等を注視していくとのことであった。

竹田市においても商工会議所、アルプス商工会等が連携しキャッシュレス化等を図り、市内の消費喚起を行っているが、今回の視察で財政規模も人口も違う中で参加店舗数と市からの支援が課題であると感じた。

社会文教常任委員会

行政視察報告

社会文教常任委員会
委員長 賀籠六めぐみ

令和7年10月15日から17日にかけて、兵庫県相生市では子育て支援施策「11の鍵」について。大阪府茨木市では茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」の施設視察と非認知能力の育成について調査研究を行った。



兵庫県

相生市



兵庫県相生市では、財政健全化計画に沿って、選択と集中による投資を①人口減少対策②教育・子育て・少子化対策③産業の活性化対策の三項目に絞っていたことがとても印象的だった。相生市子育て応援都市宣言を打ち出し、関西圏へ市長出演のPR動画の放映や列車の中刷り広告、テレビCMなど積極的かつ集中的にPRを行い周知を図っていた。また、なぜ子育て世帯だけ支援するのかという声には第一期財政健全化による効果を示し、財政状況についても中長期のシミュレーションを行ったうえで実施していた。さらに、高齢者・福祉サービスの維持に努めていることを議会や市民へ周知するため、市民対話集会（コスモストーク）を通じて丁寧な説明をすることで理解を得ていた。本市としては、今後ますます財政状況が厳しくなるなかで、選択と集中という考え方は、保有施設の集約だけでなく、まだ数多い施策に関してもいえることではないかと考える。



茨木市観光特任大使「いばらき童子」

大阪府

茨木市

茨木市文化・子育て複合施設おにクル
ウェブサイト



歴史文化姉妹都市大阪府茨木市では、まず文化・子育て複合施設「おにクル」の施設を視察した。



人の繋がりや導線などの設計にとことんこだわっている施設。その甲斐あって、室内施設「まちなかの森もっくる」は、市民対象の施設として整備されたが、有料にも関わらず6割が市外からの子育て世帯の来場者という喜ばしい状況が生まれている。本市でこのような新しい施設を新設することは難しいが、既存施設の集約と多機能化による活性化が本市にとって必要な取組と考える。

非認知能力の育成については、数値化しにくい能力を、行事前・中間・行事後に児童生徒自身が自己評価している。この取組は自己分析を行ううえで、非常に良い方法だと考える。また、非認知能力を育成することで、学力テストの結果が上昇するというデータも見られた。この取組は学校によらず、市全体で体系的に取り組まれているため、教員の異動があっても一貫されており、市内で一律化されていた。同様の取組を行っている竹田市においても今後の更なる効果を期待している。



市民との意見交換会

JAおおいた竹田ぶどう生産部会 × 総務産建常任委員会



令和7年10月30日、議会応接室において、JAおおいた竹田ぶどう生産部会の役員4名との意見交換会を行った。ぶどう部会は20年ほど前から生産振興に係る取組を行っているが、当初は50名ほどいた部員も現在は22名と年々減少傾向にあるため、担い手不足の課題解決に向けた意見交換を行った。

①先進地の研修やぶどうファーマーズスクールの取組、講習会の開催などの充実による若手の新

規参入の支援策。

- ②ブランド確立に繋がる品種の選定や全体的な生産量の底上げに対する行政支援。
- ③老朽化しているハウス設備等の補助。
- ④新規参入から3～4年は収入が見込めないことによる参入控え解消のため、高齢で離農する方の圃場や設備を賃借し生産できる仕組みづくり。
- ⑤労働力確保の観点から外国人労働者や農作業体験企画などを通じて市内外から参入してもらう方策などの意見が寄せられた。

今回の意見交換会を踏まえ、一般質問又は委員会での所管事務調査で、執行部に対し方向性や新たな施策についての考えを問い、様々な課題を共有しながら働きかけていきたい。



総務産建常任委員長 工藤 忠孝

放課後児童クラブ × 社会文教常任委員会

令和7年11月14日、久住コミュニティセンター青空において、放課後児童クラブの現状と課題をテーマに6つのクラブ、県放課後児童クラブ連絡協議会及び市放課後児童クラブ連絡協議会準備会の関係者13名と意見交換会を行った。

現状については、国の基準や補助要件による児童数、支援員数、開所日数等を遵守し運営しているが、各クラブとも複数の課題を抱え、大変苦慮している状況である。

- 課題**
- ①支援員等の確保が困難で、国の基準の遵守が難しい。地域の実情に寄り添った基準の見直しが必要。
 - ②学校との円滑な連携が取れていない。
 - ③物価高騰等による利用料の増額が余儀なくされ、利用できなくなる家庭が生じることが危惧される。
 - ④学校統合後の学童保育の体制等に係る情報が不十分。



ご意見を拝聴するなかで現場で抱える課題が明確になり、社会文教常任委員会では、第4回定例会常任委員会において、次のことを執行部に確認した。

(1)特に支援が必要な児童に係る学校との情報共有

- ①令和8年度の放課後児童クラブ申込様式に児童の特性の記入欄や情報共有の承諾欄を設ける。
- ②学校での様子が著しく気になる場合の連絡体制の充実。
- ③管理職と教諭が適宜、クラブを訪問し普段から話しやすい環境づくりに努める。

(2)竹田市放課後児童クラブ連絡協議会（仮称）と行政の関わり方

- ①市もオブザーバーとして参加する意向。

(3)学校統合に合わせた学童保育の体制づくりへの市の関わり方

- ①白丹小学校の保護者には統合先の児童クラブの制度説明を行った。新入生が入学する来年4月以降にも改めて説明を行う。



子どもの健全な育成を支援する学童保育。成長著しい子どもへ安全・安心な生活の場の提供が続けられるよう、いただいた貴重なご意見を市政へ反映すべく、引き続き働きかけていく。

社会文教常任委員長 賀籠六 めぐみ

歳末助け合いチャリティーショー

報告

議会大喜利

令和7年12月6日(土)

グランツたけた廉太郎ホール

舞台監督 賀籠六めぐみ

今回初めてチャリティーショーの担当をすることになり、演目を何にしようか思考錯誤していたところ、以前の演目である「議会大喜利」に決定しました。お題を考えるのは思いのほか楽しく、議員個々の特性を生かしたアドリブや議員がこんなやり取りをしたらおもしろそう。など色々な期待を膨らませ、市民のみなさんに楽しんでいただけたようなお題を考えました。当日まで練習期間はあまり取れませんでした。練習を重ねる度に個性豊かな議員の様々なアイデアや意見が湧き出て、また演技にも深みを出すことができたと感じています。議員間の連携も深まるなか、本番

では緊張しましたが、会場の皆さんの笑顔が拝見でき、ほっとしています。普段険しい顔をしている議員のユーモアな部分が皆さんにお届け出来ていれば幸いです。

次回も年末に心温まる演目をお見せできるように努めてまいります。



令和8年第1回(3月)定例会日程のお知らせ

令和8年第1回(3月)定例会の議会日程(予定)をお知らせします。

2月18日(水)	議会運営委員会、全員協議会
24日(火)	本会議(議案の上程、諸報告ほか)
3月 3日(火)	議会運営委員会、 本会議(代表質問、 一般質問) 中継
4日(水)	本会議(一般質問) LIVE
5日(木)	本会議(一般質問)
9日(月)	本会議(質疑、委員会付託ほか) 予算特別委員会
10日(火)	予算特別委員会
12日(木)	総務産建常任委員会
13日(金)	社会文教常任委員会
17日(火)	議会運営委員会、全員協議会 本会議(委員長報告・採決ほか)

※会議の日程等は変更になる場合があります。
※その他、議会情報は竹田市議会ホームページをご覧ください。



議会を傍聴しませんか

所定の受付簿に住所・氏名等を記入だけで、本会議や各委員会を傍聴することができます。どうぞ、お気軽においでください。

また、ケーブルテレビでも定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問の中継を行っています。

傍聴席には限りがあるため、希望者が多い場合にはご希望に沿えないこともあります。



令和7年9月定例会から一般質問・代表質問の執行部答弁は効率的な議会運営を図る観点から自席答弁と致しました。

写真提供者

箴島 孝一 氏

1954年生まれ
竹田市大字穴井迫 在住

Profile

1996年 東京総合写真専門学校研究科卒
PSJ(日本写真協会) 会員

photograph

「市議会だより」についてのご感想をお寄せください。

いただいたご感想を今後の誌面構成等に活かしてまいります。

発行：竹田市議会
編集：竹田市議会だより編集委員会
竹田市大字会々1650番地
TEL：0974-63-4813



竹田市議会

「たけた市議会だより」は、環境に配慮した再生紙を利用しています。